

C.L. information

Vol.24 2013年5月

特 集

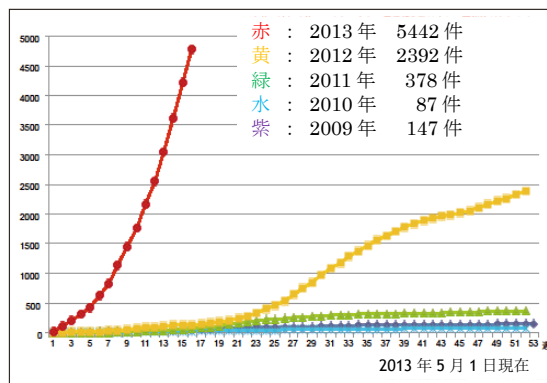
- ◆ 風疹の流行にご注意を！
- ◆ PM2.5
- ◆ 鳥インフルエンザ A (H7N9)
- ◆ 食中毒情報



株式会社コントロール・ラボ

風疹の流行にご注意を！

テレビや新聞などで風疹に関するニュースが連日報道されています。日本での風疹は1994年以降、大きな流行が発生していませんでした。しかし昨年の春先から風疹の感染者数の報告が徐々に増加傾向にあり、さらに今年になって過去に例を見ないペースで感染が拡大しています。国立感染症研究所により発表された風疹の感染者数を集計した右のグラフでも赤線で示された2013年の感染者数が爆発的に増加している様子をご理解いただけたと思います。この状況を受けて各地で風疹に対する警戒の呼びかけが続いており、神奈川県では風疹非常事態宣言も発令されています。



『IDWR-感染症発生動向調査より』

風疹とは

風疹は、日本では「三日はしか」とも言われており、風疹ウイルスが原因となるウイルス性疾患です。風疹ウイルスに感染してから14日から21日程度の潜伏期間を経て発症します。特徴的な症状としては、全身の皮膚に現れる赤く小さな発疹、リンパ節の腫れ、発熱などがあり、発疹は1ヶ月程度続きます。感染者は、男性では20代から40代、女性では20代に多い傾向があります。風疹で最も注意すべき点は、妊娠前半期の妊婦が感染した場合に胎児に先天性心疾患や難聴などの先天疾患が生じる危険性があることです。妊娠を希望している女性やその家族、周囲の人は特に注意が必要です。

流行の原因

風疹は、先述の通り比較的若い世代に多く、特に20代から40代の男性が患者の8割を占めています。この原因として、これらの世代では次の3つの理由により風疹に対する抗体を持っていないためと言われています。①学校の予防接種の対象が女子だけであった。②学校での集団接種ではなく個別に医療機関に出向いて受けることになったため予防接種そのものをしていなかった。③1回しか接種をしていなかった。このような理由で風疹に対する抵抗性が無く、現在感染が広がっていると見られます。自分が予防接種を受けているかどうか、今一度確認してみてください。

予防・対策

風疹の予防には予防接種を受けることが最も有効な手段です。予防接種を受けていない人は今からでも予防接種を受ける事をおすすめします。予防接種を受けたかどうかわからない人は医療機関で血液検査を受け、風疹に対する抗体があるかどうかを調べてもらうことができます。妊婦は風疹の感染に特に注意が必要ですが、妊娠中は予防接種を受ける事ができないため、妊娠を希望する女性や同居している家族には、早めの予防接種が呼びかけられています。風疹は感染者のくしゃみや咳など飛沫から他人に感染する（飛沫感染）ため、外出する際はマスクをしたり、帰宅後はうがい・手洗いをするようにしましょう。また、不要不急の外出や人混みを避けることも予防につながります。

PM2.5

今年の初め頃にニュースや新聞で PM2.5 という言葉を良く耳にしましたが、この時に初めて耳にした方が多いと思われますので、PM2.5 について少しご紹介したいと思います。

PM2.5 とは？

PM2.5(微小粒子状物質)とは、大気中の浮遊する小さな粒子のうち、粒子の大きさが 2.5 μm 以下の小さな粒子のことです。

物の燃焼などによって直接排出されるもの(一次生成)と、環境大気中での化学反応により生成されたもの(二次生成)とがあり、その成分には、炭素成分、硝酸塩、硫酸塩、アンモニウム塩のほか、ケイ素、ナトリウム、アルミニウムなどの無機元素が含まれます。また、さまざまな粒径のものが含まれており、地域や季節、気象条件などによって組成も変動します。

また、粒子の大きさが非常に小さいため、肺の奥深くまで入りやすく、喘息や気管支炎などの呼吸器系疾患への影響のほか、肺がんのリスクの上昇や循環器系への影響も懸念されています。

注意喚起のための暫定的な指針

環境省では、都道府県などの自治体が住民に対して注意喚起をするための「暫定的な指針となる値」として、「1日平均値 70 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 」を示しました。

これは濃度がこれを超えると健康影響が生じる可能性が高くなると考えられる濃度水準です。ただし、子どもや高齢者、呼吸器系や循環器系の病気を持つ人など高感受性者の場合は、これより低い値でも健康に影響を及ぼす可能性があります。

暫定的な指針となる値 (1日の平均値)	行動の目安
70 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 超	<ul style="list-style-type: none"> 不要不急の外出、屋外での長時間の激しい運動を減らす 高感受性者は体調に応じてより慎重に行動することが望まれる
70 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下	<ul style="list-style-type: none"> 特に行動を制約する必要はない 高感受性者は、体調の変化に注意

自治体から注意喚起が行われたら

自治体から注意喚起が行われたら、次のような対応を行いましょう。特に幼児や高齢者、呼吸器系や循環器系の疾患のある人は、体調に応じて、より慎重に行動しましょう。

場所	対応
屋外	<ul style="list-style-type: none"> PM2.5 を大量に吸い込まないように、長時間の激しい運動を減らす マスクを着用する
屋内	<ul style="list-style-type: none"> 不必要な外出は出来るだけ控える 換気や窓の開閉を必要最小限にする

一般用マスクには様々なものがあり、吸入防止効果はその性能によって異なると考えられます。医療用や産業用の防じんマスクは、微粒子の捕集効率の高いフィルターを使っており、吸入を減らす効果があります。

鳥インフルエンザ A (H7N9)

中国で初めてヒトへの感染が報告されて以来、感染者が増加している鳥インフルエンザ A(H7N9)。この「H」と「N」は、ウイルスの表面に出ているタンパク質の種類を示しています。これらのタンパク質の違いで、インフルエンザウイルスの種類が分類されています。今般問題になっている H7N9 型は、今までヒトに感染することがありませんでしたが、遺伝子の変異によりヒトへ感染することが可能になったと言われていいます。5月9日時点で、感染者は131人、死亡者は32人となっています。

感染ルート

5月9日時点では、感染源、感染経路ともに絞り込まれていません。また、ヒト-ヒト感染については、現時点では起こらないと考えられています。しかし、一度ヒトに感染したインフルエンザウイルスは、ヒトへの適応性が高まっていることが明らかになっているため注意が必要です。食肉からの感染については、インフルエンザウイルスは熱処理で不活化することが可能なため、十分に加熱調理された食品からは伝染しません。厚生労働省では、食品のすべての部分を70℃で加熱するように指導しています。

パンデミックの可能性は？

新しい感染症が現れた時に気になるのが「パンデミック（世界的な大流行）」の可能性です。これについては、香港大学の日本人研究者により、今すぐにパンデミックが起こる可能性は低いと言う論文が発表されています。1人の患者から平均で何人に病気が移るかを示す数値が、今回の H7N9 型の場合 0.37 人と推計され、季節性インフルエンザの 1.1~1.4 人より小さく、1人未満であればパンデミックは起こりにくいそうです。

食中毒情報

ノロウイルスを原因とした食中毒の発生件数が減少している一方で、細菌性食中毒の発生が徐々に増加しています。細菌性食中毒は、梅雨～初秋に多い傾向にあります。細菌性食中毒を予防するためには、温度管理が必須です。梅雨に入る前に、食材・調理品の保管方法について見直しをして、食中毒を発生させないように対策をよろしく願います。

全国食中毒発生状況 (4/13~5/14 新聞発表分)

原因物質	事例	感染者数
ノロウイルス	10	369
カンピロバクター	3	41
サポウイルス	2	66
エルシニア	1	49
不明・その他	15	473

株式会社コントロールラボ

本社 〒651-1211 神戸市北区小倉台7-1-7
 阪神事業部 〒658-0026 神戸市東灘区魚崎西町2-4-15
 福岡営業所 〒816-0921 福岡県大野城市仲畑1-6-15-A棟3
 フリーダイヤル
 ☎0120-540-643
 URL <http://controllabo.co.jp>

TEL: 078-582-3575 FAX: 078-582-357
 TEL: 078-858-6801 FAX: 078-858-680
 TEL: 092-575-0630 FAX: 092-586-632



株式会社コントロールラボ



エムテック衛生検査所